

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 多賀町

上位関連計画にみる地域の将来

- 地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再生エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量/実質GDP）35%減。
- 現在の人口：7,274人（2020国勢調査）、将来：5,967人（2030年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））
・人口ビジョンにおける町の将来展望人口6,915人（2030年）
- 第6次多賀町総合計画 特産物の栽培面積 現状：8,089 a →目標：8,200 a（2025年）
- 多賀町環境基本計画（10年後（2033年）の姿）＝温室効果ガスの吸収源である森林が守り育てられている＝地域では様々な環境保全活動が行われている

②具体的な取組

※誰が何をするのか、主なものをお書きください。

- 地域の女性陣による「おたき給食弁当を核としたコミュニティ・カフェの整備による地産地消・食の循環づくり」
- 地域おこし協力隊と地域内外のネットワーク人材による「目標年商1億円！地域資源を活用した地域商社の創業」
- 地域おこし協力隊と教育関係者による「地域資源を活用した子どもも親も生き生きする居場所づくり」

③短期目標

| 分野 | 小項目 | 成果指標 | 現状値 | 目標値 (2023年度末) | 実績値 (2023年度末) | 単位 |
|----|-------------|-----------------|-------|------------------|------------------|----|
| 環境 | 食の循環づくり | 連携する農業者数 | 2 | 5 | | 件 |
| | 地域商社の創業 | 地域資源を活かした商品数 | 1 | 5 | | 種 |
| | 居場所づくり | 地域資源を活かしたプログラム数 | 7 | 12 | | 件 |
| 経済 | 食の循環づくり | 売上げ | 120 | 200 | | 万円 |
| | 地域商社の創業 | 売上げ | 0 | 24 | | 万円 |
| | 居場所づくり | 参加費徴収 | 0 | 24 | | 万円 |
| | | | | | | |
| 社会 | 食の循環づくり | 弁当注文主体、カフェ利用者数 | 弁当49 | +カフェ利用者で100 | | 人 |
| | 地域商社の創業 | 自販機利用主体数 | 5 | 10 | | 件 |
| | 居場所づくり | 年間延べ利用人数 | 無料126 | 有料120 | | 人 |
| | 地域で活躍する外部人材 | 地域おこし協力隊 | 2 | 3 | | 人 |

①ありたい未来

※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

→ ●大滝の地域環境に育まれた、人と人とのつながり、人と自然とのつながりを未来に！
多賀町大滝地域は、鈴鹿山脈から流れ出る水の恵みによって中山間地に集落が成り立ってきた歴史があり、森林資源の活用がなされ、源流域のきれいな水により育まれたおいしい米や野菜が収穫されている。そしてそれらの環境に育まれた、田舎ならではの人情の厚さ、助け合いの精神が今も残る。また、12万人都市の彦根市に隣接し利便性を有しつつも自然豊かな環境を享受できる「ほどよい田舎」でもある。
この地域特性をふまえて、地域のビジョンは、これまでの地域住民と滋賀県立大学等の学生（よそ者）とのワークショップを踏まえて、「大滝の地域環境に育まれた、人と人とのつながり、人と自然とのつながりを未来に！」と設定した。
このビジョンの実現に向けて、3事業「おたき給食弁当を核としたコミュニティ・カフェの整備による地産地消・食の循環づくり」、「目標年商1億円！地域資源を活用した地域商社の創業」、「地域資源を活用した子どもも親も生き生きする居場所づくり」を核に据え、「地元農産物資源を活用した「食」を通じた人々の「つながりの拠点」を形成し、地域の元気づくりの拠点となり、地域商社を核に、関係・交流人口を増大させ、ローカルベンチャーが生まれる環境を創造し、やりたいことができる地域にし、「大滝地域で子どもを育てたい！」「大滝で育ててよかった！いつか大滝に戻ってこよう！」と思ってもらえる地域となることを「ありたい地域の姿」とし、活動に取り組む。

④長期目標

| 分野 | 小項目 | 成果指標 | 現状値 | 目標値 (2023年度末) | 目標年度 2030-2050年度 | 目標値 | 単位 |
|----|-------------|-----------------|-------|------------------|---------------------|------------|----|
| 環境 | 食の循環づくり | 連携する農地面積 | 0.02 | 0.05 | 2030年度 | 1.0 | ha |
| | 地域商社の創業 | 森林資源を活かした商品数 | 1 | 5 | 2030年度 | 20 | 種 |
| | 居場所づくり | 地域資源を活かしたプログラム数 | 7 | 12 | 2030年度 | 18 | 件 |
| 経済 | 食の循環づくり | 売上げ | 120 | 200 | 2030年度 | 1200 | 万円 |
| | 地域商社の創業 | 売上げ | 0 | 24 | 2030年度 | 10000 | 万円 |
| | 居場所づくり | 参加費徴収 | 0 | 24 | 2030年度 | 120 | 万円 |
| | | | | | | | |
| 社会 | 食の循環づくり | 弁当注文主体、カフェ利用者数 | 弁当49 | +カフェ利用者で100 | 2030年度 | レジカウンター=1万 | 人 |
| | 地域商社の創業 | 自販機利用主体数→創業者数 | 5 | 10 | 2030年度 | 創業者数10 | 主体 |
| | 居場所づくり | 年間延べ利用人数 | 無料126 | 有料120 | 2030年度 | 有料120 | 人 |
| | 地域で活躍する外部人材 | 地域おこし協力隊 | 2 | 3 | 2030年度 | 10 | 人 |

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

・食の循環づくり（おたき給食弁当、コミュニティ・カフェ、農家レストラン）における「環境・経済・社会」の関係性は、地産地消・食の循環づくりを通じた、収入確保と、関係者や利用者の居場所づくり、やりがい、生きがいづくりである。地産の推進により、関連農業者数を増やし、耕作農地の面積、特に特産物の栽培面積の向上に寄与する。おたき給食弁当から、コミュニティ・カフェや農家レストランへ活動を展開することで経済的な発展を図るとともに、利用者の増大を図り、関係人口、交流人口の増加をめざす。

・地域商社の創業における「環境・経済・社会」の関係性は、地域資源を活用した商品開発による収入確保と事業主体数の増加である。自販機事業での地域の資源、特に森林資源を活かした商品ラインナップの確保＝利用主体を確保するとともに、酒蔵プロジェクトで収入構造を構築し、地域の酒造の酒粕のアップサイクルや特産のそばやそば殻の利用など農産物の利用による持続可能な事業体の創出をめざす。

・居場所づくりにおける「環境・経済・社会」の関係性は、地域の環境資源を活かした、子どもたちの成長を育むコンテンツづくりである。森林資源を活かしたクラフト、ものづくりラボでの実践のコンテンツを充実させるとともに、山村留学や子どもキャンプなどを通じた地域資源を活用したプログラムを開発し、児童数減少をくい止めることができる（目標数は現状を維持する）ような子育てに魅力のある地域をめざす。

・これらの事業展開で持続可能な事業を創出し、その担い手として地域おこし協力隊などの人材を継続的に確保し、次々とローカルベンチャーが生まれてくる仕組み、新規創業者数が増える仕組みの構築をめざす。